

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-640	24-330	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
The influence of ethanol consumption on a course of endometriosis 子宮内膜症の経過に対するエタノール摂取の影響		
執筆者		
Monika Kopec ¹ , Paula Szlendak ² , Jan Kotarski ³ , Marek Gogacz ²		
掲載誌		
Ginekol Pol. 2025;96(6):503-509. doi: 10.5603/		
キーワード	PMID	
アルコール、子宮内膜症、エストロゲン、エタノール、炎症、生活様式	39878755	
要 旨		
<p>目的：生活リズムの加速と責任の増大に伴い、ストレスは日常生活に不可欠な要素となっている。毎年、メディアではアルコール消費量の増加に関する数多くの社会キャンペーンが展開されている。子宮内膜症は、子宮腔外に子宮内膜組織が存在することを特徴とする、慢性で原因不明の治癒不能なエストロゲン依存性炎症性婦人科疾患である。一部の研究では、アルコールがこの疾患の症状を悪化させる可能性が示唆されている。本研究の目的は、子宮内膜症の経過におけるエタノールの役割に関する包括的なレビューを提示することである。</p> <p>材料と方法：PubMed データベースにおいて 2000 年から 2024 年までに公開された文献を対象に、以下のキーワード（「endometriosis」「alcohol」「ethanol」）を用いた文献レビューを実施した。検索対象は英語で発表された論文とした。全文アクセス不可の文献及び重複文献は除外した。247 件の記録をスクリーニングし、うち 15 件が適格基準を満たし、12 件を本論文に採用した。</p> <p>結果：アルコールはエストロゲン産生に影響を与える可能性があり（アロマターゼ活性の増加および黄体形成ホルモンとの相互作用による）、炎症促進経路および酸化ストレスを促進する。また、痛み、不安、低い自尊心から生じる自己管理療法の一形態として認識されている。アルコール依存症の患者は、不妊症、流産、無排卵、卵巣病変をより頻繁に経験する。</p> <p>結論：エタノールが子宮内膜症の経過に悪影響を及ぼすことを示唆する明確な証拠はないものの、アルコール依存症の女性においては生命を脅かす可能性がある。子宮内膜症の経過を悪化させ、生活の多くの側面に影響を及ぼす恐れがある。</p>		